



そろそろ紅葉の見ごろかな、と思って長圓寺を訪れましたが、まだ早かったようです。

東中校区には立派なお寺がたくさんあり、庭の木々の配置も見事で、春は桜、秋は紅葉の名所として有名な場所がたくさんあります。とくに長圓寺は散策するコースもあり、野鳥の囀りにもぎやかな

ので、私自身好んで定期的に訪れています。

まるで美術館を訪れるような気持で長圓寺を訪れると、本堂の前に座っている男性がみえました。東京から来たというシステムエンジニアの方で、次の打ち合わせまでの少しの時間に長圓寺によられたようです。

「このお寺は由緒あるお寺で、京都所司代板倉勝重の菩提寺なんですよ」と声をかけると、「そうなんですか」と相槌を打たれたものの全く知らない様子でしたので、「あの時代劇で有名な大岡越前、その大岡裁きのモデルとなったと言われている人です」と知っている知識を少しだけ自慢げに語ってしまいました。

勝重は家康に認められ、家康とともに江戸へ移ってからは、関東代官、小田原地奉行、江戸町奉行を務め、最終的に当時最大の都市であった京都の行政トップである京都所司代を務めました。京都は豊臣の権威がまだまだ健在で、公家も町民も徳川の支配に反感をもつものが多かったため、京都一帯を取り締まる権力として京都所司代を設置し、家康が全幅の信頼を置く勝重に任せたのです。

勝重の魅力はたくさんありますが、もともとは出家して住職を20年近くしていたのに、家康からの度重なる要請により、遅くから武士となり、激動の時代を生き抜いたところや、幕府と公家の間の溝が深まらぬように気を配り、大坂の陣で豊臣側につくと思われた朝廷や公家が、勝重の人柄により、中立の立場を取ったことなどが挙げられます。

NHK番組「どうする家康」ではいよいよ大坂の陣の場面の放映になるようです。勝重も登場してほしいと思いつつも、どうも出番はないようです。

風に吹かれてさざめく木々や野鳥との交響曲を聞きながら眠っている勝重に一礼をして長圓寺を後にしました。

東中校区、東部地区には美しい場所が宝物のように眠っています。ネアンデルタール人が絶滅した要因の一つに、今の私たちのような「美の認知」ができなかったからだ、という論文を読んだことがあります。今週は学校ホリデー(11/24)もあり、休日が続きます。美しさを求めて。